

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月31日現在

機関番号：34305

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720229

研究課題名（和文） 守護創建禅院領の形成過程から見た室町期荘園制の研究—公武関係の地方的展開

研究課題名（英文） STUDY ON THE MANOR SYSTEM IN MUROMACHI PERIOD  
—BASED ON THE DOCUMENT OF NISIYAMA-JIZOIN

研究代表者

早島 大祐 (HAYASHIMA DAISUKE)

京都女子大学・文学部・准教授

研究者番号：10378490

研究成果の概要（和文）：

本研究でとりあげる守護創建禅院は、従来、せいぜい郷土史研究の一コマをいどころものに過ぎなかった。しかし、本研究課題を遂行するなかで明らかにした通り、分国内の国菩提寺はまちがいなく、京都と分国をむすぶ、ターミナルの一つであり、室町期の社会を読み解くうえで、重要な検討課題であることが明らかになった。また京都にたてられた京菩提寺には、守護の分国に所領が設定されることに加えて、荘園経営の安定化をもとめる京都の寺社・公家たちが、集い、こちらもやはり都鄙交通の拠点の一つになっていた。

以上の点は、従来、禅僧の荘園経営の様子が古記録などから断片的に指摘されてきたが、本研究課題では、西山地蔵院文書をもとに、その具体相を詳細に解明できた点に特色があり、禅僧の活動が、単なる一寺院の動向というにとどまらず守護の創建禅院の禅僧という、この時代の政治史の問題とも密接に関わる動きでもあったことが明瞭になった。

研究成果の概要（英文）：

IN MUROMACHI PERIOD, SHUGO BUILT TEMPLES IN HIS "SHUGO RYOGOKU". THESE TEMPLES ARE THE HEART OF THE CONTROLLING "SHOEN". AND SHUGO ALSO BUILT TEMPLES IN THE SURBURBS OF KYOTO. I NAMED THAT "KUNI-BODAIJI" and THIS "KYO-BODAIJI". THESE TEMPLES ARE THE TERMINALS OF TRANSPORTATION BETWEEN CAPITAL KYOTO and "SHUGO RYOGOKU" IN THE 15<sup>th</sup> CENTURY.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：守護創建禅院・京菩提寺・国菩提寺・西山地蔵院・公武関係・都鄙交通  
室町幕府論

## 1. 研究開始当初の背景

14～16世紀の荘園制については、長らく守護領国を進める武家の侵略をうけ解体すると理解されてきた（永原 62 など、以下、解体論とする）。しかし、実際には、14世紀以降も荘園の枠組みは存在しており、この時期の荘園をどのように位置づけるかが課題であった。

この課題を受け、近年、提起された室町期荘園制論（高橋編 03 など）では、応永年間（1394～1428）に多くの荘園で経営・支配が再建されたことが確認され、室町期荘園の実態を明らかにすると同時に、中世前期と後期の荘園制研究を媒介する土台をつくった点に成果があったといえる。しかし一方で、次に述べる二つの課題が残されている。

一つは、分析事例が顕密寺社領に偏る点である。室町期荘園論においても、分析対象は延暦寺や高野山領が中心であり、14世紀以降、将軍・守護といった武家の後援を得て展開した禅宗寺院領などの事例が含まれていない。室町期荘園制形成の原動力となったのは、武家の厚い信仰と経済的な庇護を受けて展開した禅宗寺院領であり、これまでの研究は、この荘園制形成のもう一方の軸を欠いたまま進められてきている。禅院領を正面から組み込んだ議論の構築は急務である。

もう一つは荘園支配をめぐる公武関係が、対立を基調に理解されていた点である。解体論では、半済や守護請を通じた荘園侵略が述べられていたが、室町期荘園制論では、解体論を正面から取り上げ

ていないこともあって、この点は曖昧で、室町期荘園制の展開を考える上で重要な公武交渉の問題が自覚的に取り上げられていない。

上記のような解体論と近年の室町期荘園制論とのすれ違いは、各々が注目した時期にも起因する。解体論が注目したのは、南北朝動乱後の混乱期であったが、室町期荘園制論で注目されたのは「応永の平和」とも呼ばれる秩序安定期の事例であった。すなわち、両者の齟齬を克服するには、有事から平時へ至る過程を明らかにする必要がある。その際にやはり重要なのは、荘園支配を実質化するために行われた、京の荘園領主と在京守護との交渉や、京での交渉結果を守護領国へ貫徹するための在国守護被官との交渉である。先に応募者も明らかにした通り（富田 78、早島 06、）、中世後期の政治体制は、室町殿を核に、武家と公家が融合した公武統一政権であり、このような政治のあり方は、中世における地方所領の支配形式である荘園制にも反映していたと考えられる。

解体論で、それ以後に進展した公武統一政権論的な視角を取り入れられなかったことは当然として、近年の室町期荘園制論でも、この点の議論は十分でなく、中央での公武融合政治の地方的展開として荘園制の再編を把握する作業は重要である。これは応募者がこれまで進めてきた公武統一政権論の地方的反映を見よとする研究であり、また、同じくそこで主題であった室町期の都鄙間交通を、年貢・公事など荘園制的なものの動きか

ら掘り下げようとするものである。

## 2. 研究の目的

本研究は室町期に新たに形成された禅院領の事例研究であると同時に、禅院領形成の動きに連動して再建・再編された、中世前期以来の荘園の展開についても明らかにするものである。

現在、京都大学総合博物館が所蔵する西山地蔵院文書は、室町幕府執事として三代将軍義満の初政を支えた細川頼之が1368年に創建した禅院の文書であり、同寺が数カ国の守護を兼任した細川家の菩提寺であったことから「守護方御寺」とも呼ばれ、細川家領国を中心に安定した寺領経営を行っていた。

加えてこのような細川家の後ろ盾を頼りに、他の寺社本所も請負を通じて同寺に細川領国内の荘園経営を求めており、西山地蔵院は守護の私的な菩提寺という性格に加え、荘園支配の回復を試みる京の寺社本所と、地方支配を握る武家細川家を仲介する役割を果たしていた。すなわち、同寺は地方支配をめぐる公武交渉の拠点であり、同文書の分析からは中世前期に成立した荘園が室町期にいかに関与したかについても明らかにできる。

具体的には、同寺は六勝寺領（仁和寺御室管轄）／新長講堂領／石清水八幡宮領／葉室家領を請け負っており、近年の成立期荘園制研究が王家領の研究を軸に進められたことを想起すると、六勝寺領と新長講堂領が含まれる同寺領の研究は、中世前期と後期の荘園制研究を媒介する十分な知見を提供してくれる。

西山地蔵院文書の構成的な特徴としては、安堵獲得に至るやりとりを記した阿波守護細川家奉行人や在国の守護方奉行などの書状が多く残されている点が挙げられる。その読解を通じて、上述の荘園経営を巡る公武交渉の実際をより詳細に知ることができるだろう。

学説史的な面では、従来の荘園制研究に、公武の交渉・融合という近年の室町幕府政治史研究の成果を反映させる点に独自性がある。荘園の再建は、京での室町殿や守護とのコネクションを活用して行われており、その地方的反映としての室町期荘園制再編の実態を具体的に明らかにできる。研究課題の副題を「公武関係の地方的展開」としたゆえんである。

西山地蔵院文書を中心とする本研究の分析からは、室町期荘園制の大きな柱でありながら、これまで十分な分析のなかった禅宗寺院領の形成過程、及びそれと結びついた他の荘園領主領の再建過程が明らかになるとともに、学説的には公武統一政権論を組み込んだ室町期荘園制研究の構築が可能になるのである。

## 3. 研究の方法

本研究の分析手法上の特色は、これまで十分に公開・利用がされてこなかった西山地蔵院文書を活用する点にある。

禅院領研究における本文書利用の利点は、他の禅院文書と比べて南北朝～室町期の史料を多く残す点にある。足利将軍家が創建した天龍寺や相国寺には、意外にも荘園経営の実態を示す文書は充実しておらず、また、西

山地蔵院と同じく守護細川家の創建した龍安寺には、乱前の文書が残されていない。このような禅宗寺院の文書残存状況からすれば、西山地蔵院文書の検討は、室町期における禅院領の形成過程を知る上で利用価値が高い。

荘園制研究の文脈では、室町期荘園の大きな柱でありながら、荘園制研究では正面から取り上げられてこなかった禅院領の素材を提供することに加え、御願寺領などを管領する京の荘園領主が、西山地蔵院を介して荘園支配の安定をはかった実態を明らかにできる。

本所領荘園が禅僧の代官補任を通じて経営を維持したことは早くから指摘されてきたが（新田 67）、同文書の分析からは、禅院領形成の動向をとらえた荘園領主が、禅院のネットワークを活用しつつ、自身の荘園再建を果たした姿が明らかになる。

学説史的な面では、従来の荘園制研究に、公武の交渉・融合という近年の室町幕府政治史研究の成果を反映させる点に独自性がある。荘園の再建は、京での室町殿や守護とのコネクションを活用して行われており、その地方的反映としての室町期荘園制再編の実態を具体的に明らかにできる。研究課題の副題を「公武関係の地方的展開」としたゆえんである。

#### 4. 研究成果

以上の分析から、守護の地方創建禅院（国菩提寺）の運営実態から、室町期の都鄙交通・荘園制の内容を明らかにした。

あわせて、本研究の基本史料である西山地

蔵院文書の翻刻に取り組み、その成果は思文閣出版から影印本として、2013 年度に刊行される予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 早島大祐「織田信長の畿内支配」『日本史研究』565 号、査読有、2009 年

② 早島大祐「戦国期研究の位相」『日本史研究』585 号、査読有、2011 年

③ 早島大祐「東久世庄増位家小伝」『立命館文学』624 号、査読有、2012 年

〔学会発表〕（計 1 件）

① 早島大祐「戦国期研究の位相」日本史研究会、2010 年 1 月 8 日 京都大学

〔図書〕（計 2 件）

① 早島大祐『室町幕府論』講談社、2012 年

② 早島大祐『甲賀市史 第二巻 甲賀衆の中世』甲賀市役所、2012 年

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

早島 大祐 (HAYASHIMA DAISUKE)

京都女子大学・文学部・准教授

研究者番号：10378490